

第4回サステナビリティ・CSR検定 公式テキスト掲載内容外の新規作問について

サステナビリティとCSRをめぐる昨今の新たな動きをふまえ、次の話題から5問を出題します。

1. 米国のバラク・オバマ大統領は、再生可能エネルギーや環境対策に積極的に投資し、地球温暖化防止及び景気浮揚と雇用創出を図るグリーン・ニューディール政策を推進している。

2. 環境省、経済産業省、総務省が推進しているエコポイント制度とは、地球温暖化対策、経済の活性化、地上デジタル放送対応テレビの普及を図るため、グリーン家電の購入に際して、さまざまな商品やサービスに交換できるエコポイントが取得できるものである。

3. 世界人口の約7割に相当する約40億人が年間所得3,000ドル未満の収入で生活しており、このような経済ピラミッドの底辺層をBOP (Base of the Pyramid 又は Bottom of the Pyramid)という。BOP ビジネスとは、企業が途上国においてBOP層を対象にビジネスを行いながら、BOP層の生活改善を達成する取り組みであり、グラミン銀行がバングラディッシュで行っているマイクロクレジット(少額融資)事業等が挙げられる。

4. 生物多様性とは、あらゆる生物種の多さとそれらによって成り立っている生態系の豊かさやバランスが保たれている状態をいい、種の多様性(いろいろな生き物がいること)、生態系の多様性(さまざまな環境があること)、遺伝子の多様性(それぞれの種の中でも個体差があること)の3つのレベルの多様性がある。現代の生物種の減少の原因のほとんどが、開発や乱獲、外来種の持ち込みなど人間の活動にあるといわれている。2002年にオランダのハーグで開催された生物多様性条約第6回目締約国会議(COP6)では、「締約国は現在の生物多様性の損失速度を2010年までに顕著に減少させる」という目標が採択され、日本では2008年に生物多様性の保全及び持続可能な利用についての基本原則を定めた生物多様性基本法が施行された。